

連載

- 10 世界のキーパーソン
- 11 国内人情情報
- 27 Book Reviewing Globe
- 40 広告を裏読みする
- 42 大往生考
- 51 西風
- 63 交差点―読者の声・編集者の声

- 92 皇室の風―岩井克己
- 94 日本の科学アラカルト
- 96 新・大学評判記
- 98 本に遇う―河谷史夫
- 100 をんな千一夜―石井妙子
- 118 マスコミ業界ばなし

社会・文化



役所の発表と御用専門家に依存する取材。誤った対策でもそのまま垂れ流し、失政の正当化に加担する。役人に原稿のチェックを頼む記者までいるという。情報面で日本「コロナ敗戦」を招いた共犯者だ。(114頁)

- 102 社会・文化 ● 情報カプセル
- 104 ワクチン接種者は経済を回せ
- 106 衰弱する農林族「コメ議員」――「食糧政策は誰が仕切るのか」
- 108 特捜部が狙う「公明党汚職」の獲物
- 110 創価学会が怯える選挙への影響
- 112 デジタル庁「巨額利権」を狙う米国――トップ人事を巡る「醜聞」の裏側
- 114 世界が評価する日本の「自然農法」――仏高級ワインにも影響与える「福岡正信」
- 116 日本のサンクチュアリ ● シリーズ 564
- 118 厚労省「記者クラブ」――コロナ「官製報道」で国民を誤導

経済

- 64 米国経済を襲う「インフレ」――住宅価格急騰にみる凶兆
- 66 膨張する日本の「役員報酬」――正当性なき「億円超」が増殖中
- 68 大和証券「石炭火力」の悪事は続く
- 70 提携相手「天和ハウス」が激怒
- 71 連載「クローズアップ」漆間啓三「三菱電機社長」――反省なき恥知らずな内部昇格
- 72 連載「企業研究」塩野義製薬
- 74 コロナ「経口治療薬」開発の成否
- 76 みずほ「外部社長」招聘の現実味
- 78 金融庁が描く「厳罰シナリオ」
- 79 経済 ● 情報カプセル
- 82 連載「地方金融の研究」東北銀行（岩手県）――成算なき「弱者連合傘下入り」
- 84 米国の「トヨタ叩き」が再燃――「環境問題」でシェア喪失の危機
- 86 楽天にタカられる日本郵政――筋悪提携で消失する「国有財産」
- 88 三井住友「信託紛争」の号砲
- 90 金融 ● グループ「大統合」はなるか
- 91 新疆「奴隷労働」に甘い日本企業――親中入権軽視で払う代償

日の丸ワクチン・治療薬の悲願を背負うが、巨大外資との力の差は歴然。期待の「コロナ飲み薬」でも米国3社が立ちはだかる。厚労省の甘い審査を通り、政府買い上げで生き延びる「アビガン」の二の舞か。(72頁)



政治



辞める気がない菅だが、どの道をどう進んでも終点は「退陣」しかない。総裁選での敗北もあれば、衆院選で自身の落選の可能性さえ出てきた。与党と世論に広がる「反菅」機運の中、いつまで我慢が続くか。(48頁)

- 44 政治 ● 情報カプセル
- 46 二階俊博「終身幹事長」への強欲
- 48 菅義偉の「死の行軍」
- 50 自公「過半数割れ」への一本道
- 52 連載「政界スキヤン」菅政権に「ヨコハマ」の退場勧告
- 54 「新連立」を模索する菅政権――総選挙「惨敗」後の延命策として
- 56 安倍が「逃走」させる自民総裁選
- 58 ひ弱なキングメーカーの限界
- 59 連載「罪深きはこの官僚」高嶋智光（法務省官房長）――入管死亡事件で情報隠蔽を主導

WORLD

- 3 連載「巻頭インタビュー」塩崎恭久――政治家の無能が招いた「コロナ国難」
- 6 特別リポート
- 6 米国「アフガン放棄」の冷徹――次は中国が「泥沼」へ
- 12 米国「ワクチン戦争」が過激化――共和党の抵抗で接種に大ブレーキ
- 14 メルケルなきドイツの「混沌」――後継候補に「EU指導者」は務まらず
- 16 アストラゼネカ「粗悪説」の真相
- 18 英国憎悪「EUの深い罪」
- 19 WORLD ● 情報カプセル
- 22 ロシア宇宙産業の無惨な「衰退」――米中二強との差は開くばかり
- 24 中東緊迫「次のアフガン」はどこか
- 26 タリバン型「政変ドミノ」の現実味
- 28 ブーチンが指名する「後継者」は誰か――次期大統領レースが早くも始動
- 30 文在寅も退任後に「逮捕」か
- 32 北の陰謀「清州間諜団事件」の衝撃
- 32 台湾軍首脳「スハイ事件」の重症度――「親中体質」に深まる米国の不信
- 34 中国「巨額貯蓄」が世界経済の爆弾に――「バブルマネー」五千兆円の脅威
- 36 習近平「三期目」人事を巡る攻防
- 38 死ぬまで最高権力者への道筋
- 39 連載「現代史の言霊」九月の崩壊――米同時多発テロ事件（二〇〇一年九月）

「米国凋落の象徴」との非難はしばらく続く。が、戦費と人命喪失の重荷から解き放たれれば、米国の対中戦略の幅は広がる。アフガンは誰も変えられない。介入に乗り出す中国もまた、地獄を見るハメに。(6頁)

